



世界に希望を生み出そう

Rotary

寒川ロータリークラブ



子どもたちと寒川の未来をつなごう ～さらに先の50年へ～

事務所: 〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山7番地 サンワビル2F

TEL 0467(73)0046 FAX 0467(74)0027

例会場: 寒川神社参集殿 例会日: 月曜日 18:30

会長 村松 一 幹事 山本和好

会報委員(クラブ管理運営委員会)

若菜勝美 鈴木正秋 石丸博久 大澤 剛 茂内 勝 中村 靖 二見 茂 眞原 浩 森嶋洋子 山本和好

第2279回例会 2024年4月1日(月) くもり一時雨

司会 中野副幹事

斉唱 国歌「君が代」、寒川ロータリークラブ讃歌「陽光と夢を」

唱和 「4つのテスト」

ソングリーダー 眞原クラブ管理運営委員

ゲスト 一般社団法人フットワーククラブ寒川 入澤龍馬様、大森竜朗様

メイクアップ 【3週間前分】 二見会員(理事会)

会長の時間 村松会長

フットワーククラブ寒川 入澤龍馬様、大森竜朗様、ようこそお越しくださいました。実は私、今日このお二人にお会いするのをとても楽しみにしておりました。入澤龍馬君のお父様 入澤千秋さんは私の小学校時代のサッカーの恩師にあたります。入澤千秋さんは寒川のサッカーを作り育て上げた、神様みたいな方でした。その教え子第一号が私の年代になります。中学校3年生の卒業式間近、千明さんが奥寺さんに会いにドイツに行くことになり、「お前も来るか」と言われて卒業式をほっぽり出して一緒にドイツに行きました。とても貴重な体験をさせていただき、その後私はアメリカに留学することになるわけです。その千秋さんのお子さんがこんなに立派になったとは、うれしい限りです。そして大森さん。茅ヶ崎・寒川では大森3兄弟と言ったらサッカー界で超有名でした。本当は4兄弟で、一番上のお兄さんは先日茅ヶ崎RCに入会されたそうですね。次男の方は私の出身校 藤沢西高校の先輩になります。そして竜朗さんは未っ子でいらっしゃる。こんなお二人をお迎えしてお話を伺えることをとても楽しみにしておりました。寒川RCは今後青少年育成、奉仕事業を中心に長期事業として行うことがほぼ決定しております。本日の卓話はその参考になり、またフットワーククラブ寒川様との連携もできれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします

します。さて、桜の花が咲き始めて満開にはもう少しかかるのではないのでしょうか。先週3月25日、花見家族移動例会を開催いたしました。残念なことに桜はまだ咲いてはいなかったものの、大変素晴らしい場所での移動例会でした。二宮報徳会館。料理もとてもおいしく参加した皆様も満足したのではないのでしょうか。担当の親睦委員会の皆様、改めてご設営ありがとうございました。本日は4月1日ですので新年度の初日となり入社式なども行われた模様です。私の長男も大学、大学院と6年かけやっと社会人の仲間入りを果たしました。その下にまだ3人残っておりますのでお父さんはもう少し頑張ります。とりとめのないお話となりましたが会長の時間は以上となります。本日もよろしくお願いたします。

理事会報告

審議事項

- 1) 3/25「花見家族移動例会」決算書の件…承認
- 2) 4/21「地区研修・協議会」予算書の件…承認
- 3) 5/26-27「創立家族移動例会:伊勢神宮」予算書の件…行程を見直し、予算書を臨時理事会にて再審議。
- 4) 菊地良夫会員出席免除申請提出の件…受理

出席報告

会員数	出席計算会員数	出席会員数	暫定出席率	確定出席率
38名	35名	28名	80.00%	第2276回 63.89%
本日欠席者	石井会員、加藤会員、若菜会員、三澤会員、山本哲会員、椎野会員、中村靖会員			

誕生祝 4月生まれ

三留会員、山本和好会員、
中村靖会員(欠席のため会社にお届けします)



幹事報告 山本幹事

例会変更

茅ヶ崎RC

週報受理

台北士林RC

その他受理

●ガバナー事務所

～シンガポール国際大会地区ナイトについて {5/26(日)
16:00受付 於:マリーナベイ・サンズ 会費:17,000
円/人} → 当クラブは出席者ナシ

～ 2024-25年度実施地区補助金プレゼンテーション開
催案内 {4/17(水)13:00～ 於:第一相澤ビル} (井上
晋一長期ビジョン検討委員長出席予定)

～ 2022-23年度財団寄付クラブ表彰の件 {4/21(日)
15:00(地区研修協議会全体会議II) ①100%ロータ
リー財団寄付クラブガバナー ②End Polio Now感謝状}

●綾瀬ロータリークラブ

～創立50周年記念式典開催案内 {5/14(火)15:00～
於:レンブラントホテル海老名} (会長幹事出席予定)

回覧

ORI日本事務局財団室NEWS

○米山梅吉記念館館報春号、春季例祭開催案内

委員会報告・地区および地域出向者報告

国際奉仕委員会 島村委員長

次週8日と次々週15日の例会後に士林RC創立記念式
典での出し物の練習会を行います。どちらかの日程で
はご参加いただけますよう、調整をお願いいたします。よ
ろしくお願いいたします。

同好会報告

ゴルフ同好会 椎谷会長

いよいよ明日本厚木カンツリークラブでコンペが行わ
れます。平日なので道路が混むかもしれません。皆さん
それぞれに乗り合わせていただき、時間までにご集合く
ださい。よろしくお願いいたします。

第2279回スマイルボックス

茂内クラブ管理運営委員

合計 32,000円

◎村松会長・山本幹事

フットワーククラブ寒川の皆さま、本日はよろしくお願
いします!

◎三留会員

誕生祝、ありがとうございます。おかげさまで元気に74
歳を迎えることができました。

◎井上晋一会員

本日は長期ビジョン検討委員会の卓話です。一般社団
法人フットワーククラブ寒川会長 入澤龍馬様、理事 大
森竜朗様、どうぞよろしくお願いいたします!

◎小澤会員

1.入澤様、大森様、本日の卓話よろしくお願いいたします
す。

2.本日、三男(末息子)が社会人としてのスタートを切る
ことができました。とりあえず、親の務めを果たし終え、
嬉しいような寂しいような複雑な気持ちで今日を迎え
ました。今後は孫に対しては思いきり無責任な爺ちゃん
でいようと思います。

◎青木、秋本、石腰、石塚、石丸、磯川、井上(稔)、内野、
金子、茂内、島村、清水、下里、鈴木(郁)、高波、中野、中
村(光)、藤、二見、眞原、森嶋、吉田、各会員

卓話 一般社団法人フットワーククラブ寒川

大森竜朗様

本日の卓話について井上さんから話をいただいた時
に、何を話したらいいのか非常に悩みました。我々がし
ゃべれることと言ったら「自分たちの夢」についてしかな
いだろうと思い至りました。夢を語る前に少しだけ自己
紹介をさせていただきます。私は茅ヶ崎生まれ茅ヶ崎
育ちです。兄の影響でサッカーを始めましたが、運が良
かったのか悪かったのか、小学校の時のチームがめちゃ
くちゃ強かった。大森少年は小学校卒業を前に考えま
した。当時は今のようにスポーツクラブが乱立している
状況ではなかったので、当然のことながら小学生の少
年団が終わると中学校の部活に入ることになる。当時
私は小学校のチームで一応Aチームの補欠でした。この
まま中学校に行ったとしてもその力関係は変わらない
だろう。そこで選んだのがフットワーククラブ寒川でし
た。47年間の人生の中で一番の選択だったと思います
。ここで入澤千秋という現代表のお父さんに出会いま
した。私の兄はサッカーも勉強もとても優秀で、兄貴た
ちに比べられることが多かった。そんな中で入澤千秋さん
との出会いは僕の人生を豊かにしてくれました。入澤千

秋さんに言われたのは「背が低くて足の遅いお前が、背が高く足速い奴と同じプレーをしてどうする」。その時パーッと視野が開けるような感覚があったのを覚えています。「お前らしくありません」と教えてくれたんです。そのおかげで、現・湘南工科に進み、そのあとアルゼンチンまで行くことになりました。今もこうしてサッカーの世界で活動できているという状況です。サッカーは私にとって「背骨」です。若いころは非常に悩みました。仕事とサッカーとどっちを取ろうかと。ですが今思うのは、サッカーは背骨であり、私が二足歩行できるのはサッカーのお陰である、ということです。そんなご縁をいただいた寒川が私は大好きです。そして、社会人として人間として力を付け始めた現在、フットワーククラブ寒川を何とか引き継いで大森代表とともにやっていきたいと思っています。「恩返し」と言うとなんだか生意気な感じがしますが、最近の言葉では「恩送り」と言ったらいいでしょうか。入澤千秋さんからいただいたご恩を次の世代に渡していく、そんなことができたらいいなと考えています。次に現在のフットワーククラブ寒川のお話をさせていただきます。入澤千秋という方がこの寒川の町にサッカーの文化をきちんと創り上げてくれました。我々はその第2章、入澤龍馬が引き継いで以降は「地域に必要とされるクラブを目指していこう」がテーマです。現在我々はジュニアチームから社会人チームまであるサッカークラブを運営しています。下は幼稚園から生涯を通してサッカーに携われる・関わることができるというのが我々の基本活動の①です。「地域に必要とされるクラブ」になるために、我々はどうしていったらいいのかということで、現在クラブ運営以外の様々なことに関わらせていただいています。まず、「指定管理施設における協働」。寒川の町民プール、多目的広場で行われる運動教室、年間を通して行われるイベントのお手伝いなどを行っており、こういった活動の中で井上さんを始めとするいろいろな人との繋がりができてきました。次に積極的に取り組もうとしているのが、高校生を中心に地域のイベントボランティア(町のスポーツデーのお手伝い)などへの参加です。意外と知られていないのですが、寒川がドラマ撮影に使われているのをご存じでしょうか。TBSがメインかと思いますが、スタートは町から「TBSからサッカーのシーンを撮りたい」という要請があった。河川敷の場所がいいから協力してくれないか」と言われたことでした。寒川中のサッカーチームを集めて試合をしたその際の対応などをTBSさんが評価してくださって、そのあとも引き続きいくつかのドラマやCM撮影が行われています。そして、我々が力を入れている「川とのふれあい公園サッカーグラウンド芝生化事業」。川とのふれあい公園はサッカーグラウンドとは言え四方には草が残っている土のグラウンドで、真ん中がへこんでいて水はけが悪く、水が溜まると1週間は使えない、といったグラウンドです。2022年、改修をかけ芝のポット苗45,000株をみんなで植え、一生懸命面倒を見て緑のグラウンドを創り上げました。芝刈り・散水を入澤盛介が担当し青々とした芝生を維持しています。散水は夜中から4時間かかるそうです。元々寒川のサッカー協会と寒川町が様々な話をして進めてきた芝生化事業ですが、その過程の中で寒川サッカー協会

は「維持管理は町とサッカー協会50対50でやるから、何とか芝生にしてくれ」と言うことになったそうです。2022年に植えてから芝生の維持に関することは寒川サッカー協会が担当してきました。町では専門性の高い部分を担当し、日常の諸々の作業はサッカー協会が行う。その中心となって活動しているのが我々フットワーククラブ寒川です。労力はもちろんですが安く見積もっても年間120万円くらいお金がかかる。そのお金を作るところから我々が担っていますが、サッカー協会も子どもの数が減って参加チームも少なくなってきている状況があります。「地域の皆さんとの接点創出」。サッカーイベントを開いたり、昨年10月に行った「天才万博」に参加協力したりしながら、地域の皆さんとの接点を創出しています。まだまだ力不足ではありますが地域に必要とされるクラブを目指して頑張っている次第です。なぜ地域の皆さんの役に立つことが必要なのか、その理由はクラブだけの運営だと基本的には会費収入で成り立っていく。ですがこれからますます子どもの数は減っていきます。ですから我々は会費収入だけに頼らず地域のお役に立つことで地域に必要とされるクラブになるという方向に舵を切ることになりました。その結果地域の方々から応援していただけるクラブになろう。町民の方、企業の方、行政の方にクラブの精一杯を持って元気を届け、皆さんから応援していただけるクラブを目指しています。我々の夢は皆さんの応援をもらっていつかはコンサドーレ札幌ドームクラスの練習場を寒川に創りたい。我々はJ1リーグで戦うようなチームではありませんが、地域に愛され、地域の方々から応援してくれるチームとなって3000人くらいのお客さんが見に来られるような練習場を創りたいと思っています。我々がJ1リーグに行きたいからとかではなく、町クラブとして町の皆さんの役に立って応援してもらおう。我々フットワーククラブ寒川は創設から38年目を迎えます。これからの50年、100年先につないで行けるものを地域の皆さんと一緒に創り上げていきたいと考えています。いつの日かこういったグラウンドに地域の方が孫の手を引いてサッカーの応援に来て、キッチンカーで買ったものを食べて週末を過ごす、そんな光景を寒川の町で創りたい。すでに川とのふれあい公園ができたことによってその手ごたえを感じています。我々の社会人チームはJ1リーグから数えると9番目くらいのカテゴリーにいます。トップリーグからはかけ離れたところに所属していますが、クラブの子たちが応援に来てくれています。グリーン芝で一生懸命ボールを蹴る大人たちに子どもたちはあこがれを持っています。今はクラブの子どもたちだけですが、いつかは町民の皆さんに応援していただけるようになりたい。そんな我々の夢を皆さんのお力を借りながら実現させたいと思っています。

入澤龍馬様

フットワーククラブ寒川は僕の父と母が寒川にサッカーを根付かせようと立ち上げスタートしました。最初は子どもたちがボールを蹴る場所を作りたいという思いから始まり、中学生の部、高校生の部、社会人の部とだんだんとクラブの規模が大きくなっていきました。僕も小さ

い時からそんな中で育ち、河川敷のグラウンドで先輩のお兄ちゃんたちにかわいがってもらいました。高校を卒業した時にプロを目指してアルゼンチンに留学させてもらいました。海外で見た景色、クラブの価値観や文化・歴史に触れ、帰国してからはこのクラブのコーチとして子どもたちと一緒にボールを蹴るところからキャリアをスタートしました。そして10年前25歳の時に父から代表を譲り受け僕が中心となり先頭に立って走ってきました。父と同じ道を歩めば歩むほど道なき道を進んできた父の偉大さを感じています。今はたくさんのOBがスタッフに入ってフットワーククラブ寒川を支えてくれ、第2章という次のステージに進んでいるところです。寒川町と地域に貢献しサッカーを中心に子どもたちの育成、教育も含めて盛り上げていきたいという思いでクラブは活動しています。でも僕は代表とは名ばかりでそんな大きいことはできない。ただの一人のコーチとして日々子どもと一緒にボールを蹴って練習を一緒にやったりすることしかできないんです。サッカーしかやってこなかったのでも、その情熱しかないんですね。でも、去年こんなことがありました。高校生のチームに体験入会してきた子がいました。中学の時ずっと家にひきこもりだったのですが、友だちに誘われてボールを蹴りにきてくれました。「初めまして」と挨拶したときには下を向いて僕の顔も見ることができなかった。大人とのコミュニケーションが取れない。「楽しんでやって帰ってね」と話をして練習を始めたら、もちろんサッカーもしたことがなかったのでもその日は30分ぐらいでリタイアしてしまいました。「あー、もうこれはダメかな」と思ったんですが、次の日また来てくれた。たぶん楽しかったんだと思うんですね。今度は1時間できるようになった。彼も楽しくなって「僕入会してもう一回頑張ってもいいですか」と言ってくれたんです。最初は走りとかトレーニングも全然できない。でも最後まで頑張るんですよ。やりきれなくても絶対自分ができるところまで頑張って戦う。それを見ていた周りの子たちが認め出して「こいつ根性あるよ。一緒にやろうよ。」と言って仲間ができてくる。僕はそのときにこのクラブがこの子にとっての居場所なんだなって、ずっと学校とか先生とか大人とかとうまく付き合えずに閉じこもっていた殻を割ろうと勇気を出して一歩を踏み出して、仲間にも認められたり褒められたりする。これがクラブの価値なんだなと感じました。これがクラブの存在意義なんだ。僕たちはプロの選手を出すことはできない。僕はそんな凄い選手でもすごい指導者でもない。でもその子がこれをきっかけに社会出ることができるその力を身に付けてくれたら、僕は誰かのためにこの仕事をしている意味があるんだって見出すことができたんです。それがすごく嬉しかった。そして先月にも全く同じことがありました。今度は小学4年生の子だったんですが、お母さんが練習の時にお子さんをグラウンドで連れて来られて「学校がちょっと怖くて行けなくて、今家から外に出られないんです。勉強がどうしても苦手で、本当に勉強の基本がわからなくて、学校のテストが怖くて教室に入れたい。でもサッカーが大好きでグラウンドに練習に行きたいって言うてるんです。学校には行ってなくてサッカーだけ参加するっていうのはだめですか？友だ

ちや仲間は息子のことをどう思うでしょうか。」って言われたときに「全然いいです。学校に行けなくても彼にとってはここが居場所だから絶対に連れてきてください。」とお伝えしました。練習が終わった時、子どもたちを集めて話しました。「こういう事情なんだ。でも、来た時には笑顔で迎えてあげよう。一緒にボールを蹴ろうよ。学校に行くのはイヤかもしれないし、時間もかかるかもしれないけど、でも俺たちが助けてあげて来た時には一緒にボールを蹴って彼が家から出るきっかけを作ってあげようよ。」と。彼にも練習に来ていいよって話をしたら、今も学校は行けたり行けなかったりですが、サッカーの方には元気に来るようになったんです。それが僕たちクラブがこの地域に、子どもたちにできる事なんじゃないかと思いました。僕は寒川を動かすなんてことはできないけれど、自分のチームの子ども一人でも二人でも「このクラブがあつてよかった」と思ってくれる子が育ってくれたら、僕が情熱を注いでこのクラブに命をかけて仕事をしている意味があるんじゃないかなと感じることがあります。寒川に根付いたフットワーククラブ寒川をこの先も50年100年と僕の次の若い世代のスタッフが同じ情熱を持って受け継いでいってくれると思う。それを楽しみに僕は父が作った偉大なクラブをどうやって次の世代につなげていけるか。父のようにはなれないと思いますが力いっぱい力を振り絞って子どもを育てて、いつか社会に価値を見出せるようなそんな子どもに育ってくれたら、僕たちスタッフはそれ以上幸せなことではない。結果はすぐわからない。いつもそうなんです。サッカーの試合に負けちゃうし、全然勝てないし、「なんだよフットワーク、全然弱いじゃん。勝てないじゃん」って言われるんですが、僕たちのゴールはそこじゃなくて、彼らが悔しくてまた一生懸命歯を食いしばって練習を頑張って、仲間と一緒に壁を乗り越えていくことなんです。そういうものを彼らと一緒に僕たちスタッフも進んで、大きくなったら「ああ、フットワークでサッカーをやってよかった。このコミュニティに参加して成長できた」と保護者の方に思ってもらえるようになりたい。日々毎日の小さい練習から子ども達にそういう思いで接して、それがサッカーからいつか世界へ出ていく子ども達が出て来てくれたらなあというのが僕の夢です。クラブの夢は「寒川に必要とされるクラブになること」、僕の夢はこの寒川町から世界を股にかけるような、サッカーじゃなくてもビジネスでも留学でも何でもいいんです。世界を見て帰って来た時に寒川でこんなことやろう、寒川をもっと盛り上げようよってという若い情熱のある子たちの種を今水を撒いて育てるのが僕の仕事かな、僕の夢かなと思っております。まだまだ夢を見ることが出来る花を咲かせるのは先だと思いますが、その日を夢見て僕たちスタッフは毎日走り続けています。まだまだ力不足で日々悩んで落ち込んで躓いてばかりのクラブですが、皆さんぜひ今日この日をきっかけにフットワーククラブ寒川を気にかけていただいて、グラウンドでこの黄色いユニフォームを見かけたら、もしよかったら「頑張ってるな」と声かけていただけたらうれしいなあと思っております。今後もフットワーククラブ寒川をよろしく願います。本日はどうもありがとうございました。

